

創作童話 入賞作品の紹介

亀山市立図書館では、柔軟な発想力による市民文化力を高め、子どもの読書活動の推進のために、子ども向けのお話（創作童話）を昨年10月に募集し、新図書館開館1周年記念イベントにて、表彰式を行いました。

- ・ テーマ：「鉄道」にまつわる
幼児や小学生向けのおはなし
- ・ 審査委員長：絵本作家コマヤスカン氏
(ほか、審査員5名)

〈入賞作品〉

最優秀賞

「みゆき駅 落とし物係」 作：高田 智子

優秀賞

「しんかんせんが、うらやましい」 作：梨田 元気

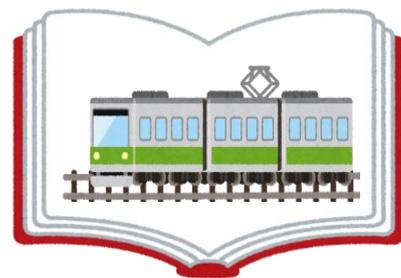
「電車でぼうけん」 作：くぼ田 幸子

「いっしょにでんしゃにのろう」 作：真弓 莉咲

「ニコラウスさんは運転士」 作：米澤 敦子

「ゆりかご電車」 作：おか てるあき

(順不同)



入賞作品6点は、図書館ホームページに掲載します。

この他にも、合計で24作品の素敵なお話が集まりました。ご応募ありがとうございました。

最優秀賞の作品は
裏面に全文掲載しています

「みゆき駅 落とし物係」

作：高田 智子



「次はみゆき駅、みゆき駅、終点です」

車掌さんの声で、ゆみは目を覚ましました。

日曜の昼下がり、ひとりピアノのレッスン

にでかけた帰りのことです。ふと前の座席を

みると、茶色いケースが置いてあります。ま

わりに人はいません。それは日ざしをあびて

居眠りしているうさぎのようでした。

(きつとだれかの忘れものだ)

ゆみはとつさにケースを抱えると、電車を

飛び降りました。改札で駅員さんにそのこと

を話すと、駅員さんは言いました。

「そこに落とし物係があるから、持って行っ

てくれるかな」

「これはバイオリンだね」

受け取った係の人は言いました。じつさい、

係の人がふたを開けると、つやつやと光る楽

器が顔をのぞかせました。まだ新品のようで

す。

「すみません、それ、わたしのです」

そこへ息を切らせて、女の子がかけこんで

きました。ゆみと近い年くらいなの、髪をおさ

げにした女の子です。

「さっき、電車のなかに忘れたんです」

バイオリンに手を伸ばしかけた女の子に、

係の人は聞きました。

「あなたのお名前は？」

「上野かなです」

「こまったなあ」

係の人はバイオリンとケースを確かめなが

ら言いました。

「どこにも名前が書いてないや」

となりで見ていたゆみは、いらいらしてき

ました。まるでいじわるを言っているように

す。すると、係の人は言いました。

「うたがっているわけではないよ。ただ、こ

れが本当にあなたのものだと分からないと返

すことはできないんだ。そういう人がたまに

いるんだよ。おさいふを落としてもいないの

に、落としたとうそをついて、ここにやって

くる人が」

そのとき、ゆみはいいことを思いつきまし

た。

「ここでバイオリンを弾いてもらったらどう

ですか。もし弾けたら、これは彼女のもので

す」

かなでは、バイオリンをケースから取り出

し、弓を慣れた手つきで構えました。それは

彼女のからだの一部のようになじんでいま

た。かなではひとつ深呼吸をすると、すべり

だすように演奏を始めました。軽やかなメロ

ディーです。さっきまでしかめつらだった

係の人も、曲に合わせて肩を揺らせていま

す。曲が終わる頃には、バイオリンの持ち主は、

かなでこそふさわしいと、みんなが思いま

した。

あれから十年たちました。みゆき駅のピ

アノで、ゆみの伴奏に合わせて、かなではバイ

オリンを弾いています。

